



巻頭特集

「評価」について～「学習到達目標（CAN-DO リスト等）」～

金子 淳（山形大学地域教育文化学部 准教授）

「小学校5年生・6年生の英語の授業に関して、評価はどのようにしたらいいのでしょうか?」。このようなご質問を、最近、小学校の先生方からよくいただきます。2020年度から教科となることに加え、前倒しで次期学習指導要領を実施している小学校にお勤めであれば、そのような関心をお持ちになれるのは当然のことと思います。ただ、現段階(2018年7月)で、文部科学省から評価について、まだはっきりと示されてはいません(ただし、移行期間における評価の扱いについては、昨年、通知されています⁽¹⁾)。とはいえ、いくつか現時点でわかっていることもあります。それは「評価」の際、「学習到達目標(CAN-DO リスト等)」が大きく関わってくる、ということです。

私は昨年度、公益財団法人やまがた教育振興財団から研究助成をいただき、山形県で小学校英語の教科化に関する調査研究を行いました⁽²⁾。その際、「CAN-DO リストという言葉聞いたことがありますか?」というアンケートの質問項目を設けたのですが、結果は、半分弱の先生が「聞いたことがありません」というものでした。そのうち、なんと20パーセント弱の先生は「まったく聞いたことがありません」と答えたのです。おそらく他県でも同じような状況なのではないでしょうか。それを踏まえ、ここでは学習到達目標(CAN-DO リスト等)とは何なのか、すなわち「定義」と「意義」についてお話をさせていただければと思っています。

1. 「学習到達目標（CAN-DO リスト等）」とは何か

学習到達目標(CAN-DO リスト等)とは、「学習指導要領に基づき、各中・高等学校が生徒に求められる英語力を達成するための目標(学習到達目標)を「言語を用いて何ができるか」という観点から、具体的に設定されたものである」(文部科学省、p.3⁽³⁾)と定義づけられています。一例として、私が英語教育アドバイザーとしてお手伝いをさせていただいている山形県川西町の6つの小学校で共有している学習到達目標(CAN-DO リスト等)をお示ししましょう。

それぞれの文章の末尾が「～できる(CAN-DO)」と結ばれています。この“CAN-DO”という文言は何を意味す

H30 川西町小学校 CAN-DO リスト

		第 5 学 年	第 6 学 年
聞くこと		<ul style="list-style-type: none"> 自分のことや身近な事について、簡単な言葉を聞き取り、短い話の大まかな内容が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活について、しっかりと内容を聞き取り、短い話の大まかな内容が分かる。
話すこと	やりとり	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活について、自分の気持ちや考えなどを、簡単な言葉や言い方で、たずねたり答えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)日常生活について、自分の気持ちや考えなどを、簡単な言葉や言い方で、たずねたり答えたりすることができる。 (2)簡単な言葉や言い方で、その場で質問したり答えたりすることができる。
	発表	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい事を、簡単な言葉で発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の事などについて、簡単な言葉や言い方で発表することができる。
読むこと		<ul style="list-style-type: none"> (1)アルファベットと簡単な言葉や文の意味が分かる。 (2)アルファベットジングルを言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)アルファベットが分かり、その読み方を発音することができる。 (2)簡単な言葉や言い方の意味を予想しながら読むことができる。
書くこと		<ul style="list-style-type: none"> (1)アルファベットを書くことができる。 (2)習ったことをもとに、簡単な言葉や文を書き写すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)言葉の順序を考えながら、よく聞いた簡単な言葉や言い方を書き写すことができる。 (2)例文をもとに、自分の事や身近なことについて、よく聞いた簡単な言葉や言い方で書くことができる。

るのでしょうか？ これは、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の理念「学習者・教授者・評価者が共通の尺度を持って能力を記述し、評価するには、学習者の要求と需要を満たし、技能と資質面から見て到達可能な学習目標を、明確・明示的に“CAN-DO”で表現する」に由来します(投野, p.52⁽⁴⁾)。そして、定義にある「言語を用いて何ができるか」という言葉の背後には、根岸雅史によれば、行動中心主義の考え方があるとされています。行動中心主義とは、「言語の使用者と学習者をまず基本的に『社会的に行動する者・社会的存在』、つまり一定の与えられた条件、特定の環境、また特殊な行動領域の中で、(言語行動とは限定されない)課題を遂行・完成することを要求されている社会の成員と見なす」考え方です(Council, p.9⁽⁵⁾) (日本語は吉島に拠る)。わかりやすく言えば、現実の社会生活上、決して使うことのない、形式的な文法や文型の練習ではなく、社会的な文脈を踏まえた、現実の日常生活で使用する言語活動が重視されるということです。

では、普段の授業で学習到達目標(CAN-DOリスト等)をどのように使っていくのでしょうか？ 現段階で、小学校における評価と関連づけた学習到達目標(CAN-DOリスト等)の実践例はあまり多くはありま

せんが、すでに学習到達目標(CAN-DOリスト等)が活用されている中学校や高等学校の例を見れば、おぼろげながらイメージがつかめてきます。例えば、中学校・高等学校の活用例に倣って、第5学年の「話すこと」の「やりとり」を見てみましょう。「日常生活について、自分の気持ちや考えなどを、簡単な言葉や言い方で、たずねたり答えたりすることができる」となっていますが、これは5年生の学年末には「日常生活について、自分の気持ちや考えなどを、簡単な言葉や言い方で、たずねたり答えたりすることができる」ようになる、ことを目標とすることになります。その目標に到達しているかどうかを確認するために、スピーキング能力を測定するパフォーマンス・テストを実施することになります。そのパフォーマンス・テストを実施するためには、普段の授業の際に、そのパフォーマンス・テストの内容を念頭においた言語活動やアクティビティを、たつぷりと授業の時に実施しておくことが必要となってくるのです。

2. なぜ今「学習到達目標 (CAN-DO リスト等)」なのか



ではなぜ今、学習到達目標(CAN-DOリスト等)なのでしょう。私は、学習到達目標(CAN-DOリスト等)は、日本の英語教育の歴史において、画期的であり、革命的な意義があると思っています。

明治維新以降、日本の英語教育は文法訳読方式が実施され、戦後、パターン・プラクティスの特徴とするオーディオリンガル教授法(オーラル・アプローチ)が加わりました(白井, p.121⁽⁶⁾)。しかし、文法訳読方式もオーディオリンガル教授法も、正確さにこだわり、形式的に文法を憶えさせる傾向があり、現実にはあり得ない、学習者の意図とは無関係な文の操作に終始しがちでした。カードを使い、機械的・形式的に文を変化させ、社会的コンテクストがない、文法や文型を憶えさせてきたのです。これが上手いかなかったことは皆様方がよくご存知のことと思います。

その後、グローバル化が進み、コミュニケーション能力の向上が必要とされるようになってきます。それに伴い、コミュニケーション重視の授業が実施されるようになってきました。ところが、それでも成績をつ

PROFILE

金子 淳 かねこ じゅん (山形大学地域教育文化学部 准教授)

秋田県生まれ。新潟大学大学院現代社会文化研究科修了。博士(学術)。新潟県高等学校教員、国立高専、公立短大を経て現職。イェール大学客員研究員。英語教育・異文化理解・英米文学。『朝倉日英対照言語学シリーズ[発展編] 英語教育と言語研究』(第6章 英語教育と評価研究 朝倉書店)、『英語好きな子に育つ たのしいお話365』(誠文堂新光社)など

ける段階になると、依然として「文法項目が習得できたか」という従来通りの評価方法が行われてきたのです。これは致命的であると言えます。なぜなら、いくらコミュニケーション重視の授業をしても、肝心の評価が従来通り、文法の定着度のみを測るものであれば、そもそもコミュニケーション重視の授業をする意味がなくなってしまうからです。

この問題を解決するため、学習到達目標(CAN-DOリスト等)があるのだと思います。学習到達目標(CAN-DOリスト等)は、「言語の形式にではなく言語の意味に焦点をあてる、すなわち言語を使ってメッセージを伝える」コミュニケーション・アプローチ(伝達中心の教授法)(白井, p.120⁽⁶⁾)の言語観が背景にあります。「日常生活について、自分の気持ちや考えなどを、簡単な言葉や言い方で、たずねたり答えたりすることができる」ことを「到達目標」とした言語活動を授業で実施することによって、英語の文法を頭で理解し記憶するのではなく、実際に英語を使いながら、英語を身につけていくことになります。さらに、これまでは「文法」の観点からのみの評価でしたが、学習到達目標(CAN-DOリスト等)では、「文法」のみならず、「内容」も評価の対象となります。つまり、ここにきて初めて、コミュニケーションを重視した授業を、コミュニケーションを重視した評価方法で評価することが可能になったのです。すなわち、授業内容と評価方法が「コミュニケーション重視」で一致したことになります。それゆえ、学習到達目標(CAN-DOリスト等)は、日本の英語教育史上、画期的であり、革命的な意義がある、とお話したのです。

3. おわりに

学習到達目標(CAN-DOリスト等)についていかがでしたでしょうか？ すぐには理解することが難しい

かったかもしれませんね。ただ、これからいろいろな場面で耳にすることが増えてくるかと思うので、その時には、ここでお話をさせていただいたことを思い出していただけたらと思っています。

(この原稿は、『朝倉日英対照言語学シリーズ[発展編] 英語教育と言語研究』(第6章 英語教育と評価研究 朝倉書店 10月刊行予定)の内容に基づき、一部改編しています)



【引用・参考文献】

- (1) 文部科学省 小学校及び中学校の学習指導要領等に関する移行措置並びに移行期間中における学習指導等について
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afile/ldfile/2017/07/11/1387780_004_1.pdf
- (2) 金子淳(2018)『公益財団法人やまがた教育振興財団[教員養成に関する調査研究事業]報告書 山形県における、小学校英語教科化に対応するための実践的カリキュラムならびにプログラムの開発研究』
- (3) 文部科学省 各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1332306.htm
- (4) 投野由紀夫(編)(2014)『英語到達度指標 CEFR-Jガイドブック CAN-DOリスト作成・活用』東京 大修館書店
- (5) Council of Europe. (2001). Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment. Strasbourg: Cambridge University Press. (吉島茂・大橋理枝他(編訳)(2014)『外国語教育Ⅱ 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』追補版 東京 朝日出版社)
- (6) 白井恭弘(2008)『外国語学習の科学 第二言語習得論とは何か』東京 岩波書店
- (7) 金子淳(2018)「CAN-DOリストの作成と活用に関する問題点とその対策—山形県の中学校・高等学校を中心に—」TOHOKU TEFL JACET, vol.7, pp.13-27.
- (8) 根岸雅史「CAN-DO リストは日本の英語教育に何をもたらすか」
https://www.britishcouncil.jp/sites/default/files/ji_diao_jiang_yan_2_can-do_risutohari_ben_noying_yu_jiao_yu_nihe_womotarasuka.pdf

～読み書きの力を伸ばす指導の 実際と教師の英語力～

木下 啓子 (札幌市立元町北小学校・英語専門教師)

1. 読む力・書く力の重要性

学童期の児童が言語を学ぶとき、どのように学んでいくでしょうか。この時期、児童は、国語の授業は勿論ですが、目に入ってくる教室の掲示物を毎日繰り返して見たり、読書する機会を多く与えられたり、先生や友達との会話を通して多くを学んでいきます。こうした言語環境を英語教育にあてはめると、私たち教師は視覚と聴覚を通して学校で学んでいく環境をもっと作っていくべきではないかと思います。ことに授業時数が70時間に増えることを想定すると、コミュニケーションを主とする指導の中に文字を読んだり書いたりする指導がもっと必要ではないかと考えることが、多くなりました。

そして改めて新学習指導要領の解説を読んだとき、こうした読み書きの力が実際なぜ重要視されつつあるか、合点がいました。新学習指導要領での外国語科(英語)導入の趣旨のキーワードこそ、その答えでした。

すなわち、これまでの小学校の外国語活動が活動を主体として楽しく充実化してきたと言われる、その一方で、日本語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習において課題があることが指摘され、また、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視することが求められるようになったのです。

このことは昨年、英語専門教師として複数校を訪問して私が感じていたことに合致します。どこの学校を訪問しても児童は「もっと英語ができるようになりたい」という高い意欲をもっているのですが、これまでの35時間の非体系的な指導の中では、「いつまでも文字が読めないし、書けない。英語が大好きだけれど英語がわかるという実感がない。」という思いが残った

のです。

ですが、高学年の児童は本来、意欲的で「もっと英語の文字を学びたい。文字を読みたい。カードを英語で書いてみたい。」という強い願いをもっているのを感じました。確かに「音声に慣れ親しませながらコミュニケーションの素地を養うこと」は言語の習得に欠かせない過程です。しかし読むこと・書くことを、教師が、児童の負担になると一方的に判断し、文字指導やドリルを排除することは、高学年にとって新たな英語嫌いを生むマイナスの要素となり得ると思います。ですから授業時数の増えた今年から、訪問校でペンマンシップをベースにしたワークを使った実践をしています。それは中学の前倒しという意味ではありません。児童ができるようになった足跡を残すという、積極的な意義をもつからであり、各校の児童のもつ、優れた読む力や書く力を更に伸ばしたいと願う一心からです。

2. 現行カリキュラムにおける活動

それでは現行のカリキュラムの中で「読むこと」「書くこと」をどのように位置づけているか、いくつかご紹介したいと思います。

1. 5年生 フォニックスの指導

高学年になるとアルファベットの【名前】読みと【音】読みの違いがわかるようになります。勿論、いなりフォニックス指導を入れても難しいので、まずは、身の回りにある英語の表示とできるだけ触れ合わせます。見覚えのあるビルの看板、着ているTシャツの表示、持ち物のロゴマークなど沢山の素材に触れ合わせます。しかし、それらがローマ字読みやアルファベット読みのもものばかりではなく、フォニックスという【音】読みで読むことに気付いたとき、そしてその読み

PROFILE

木下 啓子 きのした けいこ (小学校専門英語教師・4校担当)

文部科学省委託小学校英語専門教師。小学校教諭として勤務しながら英語検定一級を取得。現在、札幌市立元町北小学校を拠点校として小学校の外国語活動、及び外国語の授業担当を他3校に行う。教師の英語力を高めるために、市内で小学校教員の英語学習会NTIE (New teacher's Improvement of English)を運営し、現在も教材開発及び教員の学習会を続けている。

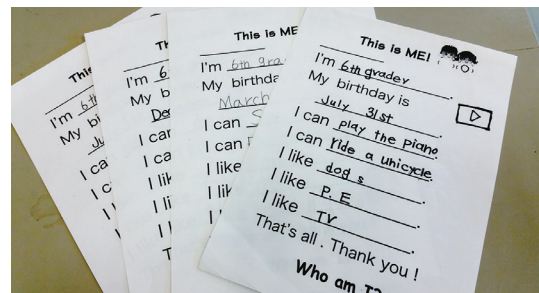
方で身近な文字が読めるという認識をもったときにA-Zまでの音素を教えました。音素をとらえるこの指導に、私の場合はデジタル教材でのフォニックスの歌指導を行ってきました。自主教材ですが、パワーポイントにフォニックスの歌を貼り付け、綴りとイラストをつけて毎時歌うようにしました。最近は歌の導入前に、フォニックスを使った絵カルタを一度体験させてから歌指導に入るようにしています。意味のわからない歌ではなく、「この文字がこう読めるんだ」という意識を大事にするようにしています。この力が発展すると身近な文字を【音】読みで読むようになり、短い単語は決まりを当てはめて読もうという意識が醸成されてきます。



2. 6年生 自己紹介カード・バースデーカードの実践

更に6年生になると、児童は文字を使って読んだり、書いてみたいという意識をもつようになります。勿論まだ全員が正確に単語を読んだり書いたりできるわけではありませんが、I can, I like, のターゲットフレーズを学んだあと、このフレーズを使って自主的に文章を書きたいという児童が多くなります。実際に自己紹介カードを作成させ、誰の紹介文か書いたカードを互いにクイズ形式にして読ませる機会を設けたところ、読んだり書いたりする自信はぐんと深まりました。また、When is your birthday? で誕生日を学

んだあと、家族や友達に宛てて書いたバースデーカードでは、相手への思いを英文で生き生きと表現するようになります。この時、自分の思いを多岐に表現したいという児童が、「先生、ここにはない言葉なんですけどどう言えばいいんですか?」と聞いてきましたが、新教材「We can!」にある、Word Listを大いに活用させました。完成したバースデーカードを大喜びで家に持って帰る児童や「家でも書きたい」と願う各訪問校の児童の姿には改めて驚かされ、感動しました。



3. 今、求められる教師の力

2020年度以降、高学年の外国語(英語)の授業時数は70時間になりますが、私は少なくとも英語科については教師自身の英語力が問われていくと考えています。グローバルな時代の流れを踏まえ児童の将来を考えたとき、フォニックスの理論も含めた教師自身の英語力の向上とその為の努力は必要だと思います。しかし、我々はネイティブになる必要はありません。間違いを怖れず果敢に世界を駆け、胸を張って英語に挑戦していく姿勢を児童に見せていけばいいのです。それこそが児童の輝く未来を拓くキーだと信じています。

【引用・参考文献】

- ・文部科学省(2017年)『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』
- ・田中真紀子(2017年)『小学生に英語の読み書きをどう教えたらいかが?』研究社

「将来につながる英語」を目指して

～個に応じた私学の英語教育実践例～

伊藤 扇 (慶應義塾幼稚舎教諭〈英語科〉・慶應義塾大学教職課程センター講師)

1. はじめに

慶應義塾には一貫教育校と呼ばれる小・中・高等学校が9校あり、福澤諭吉の基本理念に基づいて各校が独自の教育方針と校風を持っています。その小学校の一つである幼稚舎は、大使館の多い東京の広尾に位置し、創立144年になります。6年間担任とクラスメートが変わらない「担任持ち上がり制」と「教科別専科制」を特徴とし、英語教育は戦時中の一時期を除いて創立当初から行われています。現在、1・2年生は隔週、3年生は週1回(1クラスを18名ずつの2分割)、4年生からは週2回の少人数制(1クラスを12名ずつの3分割)で授業が行われ、ネイティブを含む英語専科教員が指導しています。卒業生は慶應義塾の中学、高等学校、大学に進学するので、英語教育の一貫性や連携は塾内の教員にとって重要な課題です。小学校における学びが中学・高校でどう活かしているのか、教え子らの成長を長い目で見てみると、「小学校英語における音の重要性」と「個に応じた指導の必要性」をあらためて強く感じます。子どもの多種多様な興味・関心と、言語習得過程における個々の違いを尊重しながら、彼らの学習意欲に強く働きかけることを目指す幼稚舎の英語教育の実践を紹介します。

2. 多様な学習機会の創出

低学年から慣れ親しんだ英語の学びを、4年生からは様々なテキストを用いて深めていきます。12名の教室は活気に満ち溢れ、好奇心旺盛で警戒心も少ない中学年は元気いっぱいです。一人一人に発話の機会が確保され、「聞く」「話す」活動に集中できる環境は「個に応じた指導」を可能にしています。言語のスキル別では個人差のある児童期に個別の対応ができるのは少人

数制の大きなメリットです。英語を口にするのが「当たり前」の雰囲気を作り、多様な教材を通して英語本来の音を身につけさせ、広い世界につながりたいと願



高学年の授業風景

う子どもの想像力を膨らませます。文字と音の関係を学ぶフォニックスは時間をかけて高学年につなげます。また、幼稚舎には30年以上続く独自の英語検定『イングリッシュ・プロ』があり、4年生からテキストとCDが配られ、児童の学習意欲をかきたてます。学期に一度、教員と1対1の対話に臨み、合格するとカードにシールをもらえます。進度は児童によってバラバラ、各段階の修了時には舎長(校長)からサインをもらって記念写真を撮ります。検定には一貫教育校からも教員が駆けつけ、児童は将来進学する中学・高校の先生と話す好機にも恵まれます。その他、高学年の授業は「発表」を多く取り入れ、5年生は「読む」力を伸ばし、6年生は「書く」活動に興味を示すようになります。まだ書く力は高くありませんが、学校行事や日本文化を英語で紹介したり、交流校と手紙の交換をしたり、熱心に取り組む姿が見られます。児童の「英語で言ってみよう、伝えたい」という自然な気持ちを育む環境を創出できるよう努めています。発音磨きにはCALL (Computer-Assisted Language Laboratory) を使った会話練習も行っており、ICTを活用しています。

PROFILE

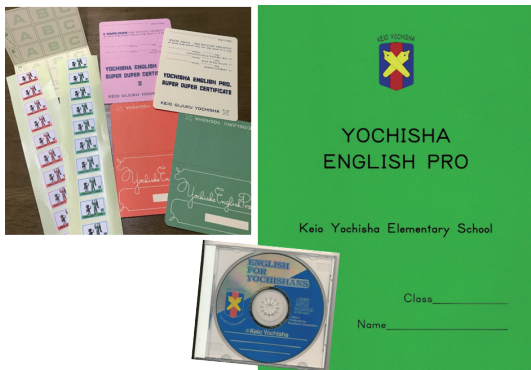
伊藤 扇 いう おおぎ (慶應義塾幼稚舎教諭〈英語科〉・慶應義塾大学教職課程センター講師)

慶應義塾大学文学部卒業、英国チチェスター大学MA TESOL (英語教授法) 修士課程修了。スイス企業に8年勤務後、中学英語教育番組インストラクTV台本・放送講師。2000年より都内私立中学、高校の講師を経て、2002年慶應義塾の小学校である幼稚舎の英語教員となる。国際交流を担当する傍ら、2010年から5年間、塾内の高等学校兼任講師を務め、2018年大学教職課程センターにて『小・中・高等学校の連携』をテーマに現場教員の立場から講義を担当、現在に至る。

3. 国際交流プログラム

幼稚舎では国際交流プログラムを長年実施しています。英国オックスフォードにあるドラゴンスクールという小学校との交流は23年目を迎えます。10～15名の児童が春と秋に互いの国を訪れ、学校生活とホームステイを体験します。また、夏休みに慶應ニューヨーク学院に滞在しながら現地キャンプに参加するもの(4～6年生36名)や語学研修と英国文化を体験するもの(6年生36名)があり、どちらも20年以上続いています。3年前から新たにハワイのプナホウスクールの小学校とも交流が始まり、16名の5年生が春と冬に互いに行き来し合い、異文化体験をしながら交流を深めています。各プログラムは自由参加ですが、毎年抽選になるほどの人気です。

特に、交流校を持つことの意味は大きく、クラスの一員として相手を迎え入れるので、ホストファミリー以外の児童も積極的に関わる光景が見られます。小学生のうちからグローバル社会の一員としての視野を持ち、外国語を使って仲間と共に学び合うという体験は、卒業後の彼らの強い学習動機につながっており、中学・高校だけでなく、大学での海外留学を目指すきっかけにもなっています。



幼稚舎イングリッシュ・プロの教材

4. おわりに

『小・中・高等学校の英語教育の連携』が今まさに叫ばれていますが、決して容易いことではないと実感しています。しかし、卒業生の成長を長期に渡って見ていると、小学校から始めた英語の「音」は中学・高校で間違いなく活かされており、発音の良さや聴解力は突出しています。また、学習者の「個」の強みや弱みに応じた指導は、学習意欲を削ぐことなく伸び伸びと学べる環境づくりを実現しています。個々の多様な学びに向き合い、世界の人々と「伝え合いたい」という情熱を育て、一人でも多くの教え子が将来グローバル社会を闊歩している、そんな姿を思い浮かべながら、これからも日々の英語指導に励んでいきたいと思っています。



国際交流プログラムの数々

【引用・参考文献】

慶應義塾幼稚舎(2015)『幼稚舎イングリッシュ・プロ』
慶應義塾公式ホームページ 一貫教育校
<https://www.keio.ac.jp/ja/academics/affiliated-schools/>

今までの教材にはない、新感覚の英語ワーク

楽しく学んで'英語が好きに！



小学校
低学年
向け

全3冊／B5判
カラー・2色
24ページ
定価 350円(税込)

子どもが夢中になる、楽しいしかけがいっぱい



めいろやパズル、かくし絵など、
子どもが大好きなアクティビティを
たくさん集めました。
遊び感覚で取り組むことで、
無理なく英語の世界に入れます。

2020年から始まる
新指導要領・外国語活動につながる！

難易度順に①～③に分冊！

図画工作など他教科の授業にも使える！



編集・発行 啓林館東京本部 TEL(03)3814-5183(直通) デザイン・印刷 エイブル・株式会社スタジオヤマト・木野瀬印刷株式会社

教授用資料

Fun with ENGLISH 2018 秋号

—— 知が啓く。 ——
啓林館

<http://www.shinko-keirin.co.jp>

本社 〒543-0052 大阪市天王寺区大道4丁目3番25号
東京支社 〒113-0023 東京都文京区向丘2丁目3番10号
北海道支社 〒060-0062 札幌市中央区南二条西9丁目1番2号 サンケン札幌ビル1階
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1丁目4番34号双栄ビル2階
広島支社 〒732-0052 広島市東区光町1丁目7番11号広島CDビル5階
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目5番6号ハイヒルズビル5階

TEL(06)6779-1531
TEL(03)3814-2151
TEL(011)271-2022
TEL(052)935-2585
TEL(082)261-7246
TEL(092)725-6677